



連盟50年のあゆみ

- 1 千葉県少年野球連盟の創設から発展的解散、そして新法人設立まで
- 2 地域ブロック区割りの変遷
- 3 登録チームの推移
- 4 指導者講習会
- 5 審判講習会
- 6 千葉県少年野球大会の変遷
- 7 少年野球千葉県選手権大会の変遷
 - 特別交流大会開催の経緯
- 8 低学年大会の変遷
- 9 友遊ボール競技の変遷
- 10 地域対抗6年生大会の変遷
- 11 高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会
- 12 関東学童軟式野球大会
- 13 関東学童軟式野球秋季大会
- 14 NPB ガールズトーナメント
- 15 NPB12球団ジュニアトーナメント大会の変遷

●連盟のこの10年をふりかえって

年表

1

千葉県少年野球連盟の 創設から発展的解散、 そして新法人設立まで

県内初の少年野球大会（千葉日報杯）（S46）

昭和 45 年に安房郡内で初めて少年野球チームを結成したことを契機に、青少年の健全育成・交流を目的として少年野球大会の開催を模索し、千葉県、千葉県教育委員会、市町村、千葉県野球協会等の関係機関への協力を要請した。

千葉県教育委員会の協力を得て、昭和 46 年 9 月 19 日から 1 か月をかけて、県内少年野球チームの実態調査を実施した結果、県内 11 市で少年野球 39 チーム、ソフトボールチーム 30 チーム合わせて 69 チームが活動していることが判明した。

このうち大会に参加を希望するチームを市町村 8 ブロックに区分してブロック予選を行い、昭和 46 年 11 月 14 日、館山市スポーツ振興会、千葉日報社の共催による 8 ブロック代表チームによる県内初の第 1 回千葉県少年野球大会が館山市の北条小学校で開催した。これが第 1 回千葉日報杯である。

千葉県少年野球連盟の創設（S47）

県内の青少年の健全育成と少年野球チームの交流等を図ることを目的とした「連盟」創設の組織基盤の整備に着手するため、8 ブロックの世話人との折衝を重ね、昭和 47 年 3 月 19 日、発起人会を開催し、全会一致で「千葉県少年野球連盟」の設立を承認し、翌年昭和 48 年 4 月 23 日「千葉県少年野球連盟設立総会」を開催して、初代会長に畠山 暹氏、副会長に鈴木宗平氏、森山弘大氏の両氏が選任され少年野球が第一歩をあゆみ始めた。

少年野球初のテレビ中継（S53）

昭和 53 年の第 8 回千葉県少年野球大会から「千葉テレビ」によるテレビ放映が開始され、これを機に少年野球チームの結成が増加し、子供たちに千葉県少年野球大会に出場したいという夢を与えた効果は大であった。

組織の体制整備（S60）

昭和 60 年 6 月 26 日開催の総会において、事業面の実務を強化するため理事長制の導入と併せて郡市単位に 1 名の理事を配置するとともに、ブロックに所属するチームの連盟への登録を義務付けし、8 ブロックから千葉市と船橋市を独立させ 10 ブロック制に移行した。

少年野球千葉県大会の創設（ろうきん杯）（S60）

秋の千葉県少年野球大会を千葉県労働金庫と折衝して支援の内諾が得られ、昭和 60 年 11 月 10 日、各ブロック代表 32 チームが参加して第 1 回少年野球千葉県選手権大会（ろうきん杯争奪戦）を開催した。

改革期（H3～H7）

(1) 初代会長の畠山暹氏勇退

本連盟創設から初代会長として 20 年に亘り多大な功績を残した畠山暹氏が平成 3 年 4 月 27 日の総会をもって勇退し、後任の会長に鈴木宗平氏が選任され 2 代目会長に就任した。

(2) 事務局組織の変革

事業運営の活性化と責任体制の整備強化を図るため、役員・代議員を含めた 10 の専門部制（総務部、経理部、広報部、企画部、安全指導部、管理部、大会運営部、渉外部、審判部、普及開発部）を敷き、事務局の組織改革を実施。

(3) 指導者認定講習会の創設

少年野球の子供たちの指導に当たっている指導者を対象に、野球に必要な知識の習得を図るべく、スポーツ医学を、野球の技術と体験談等講習会の規約に定め、平成 5 年 2 月 21 日・22 日の二日間に亘り「第 1 回指導者認定講習会」を千葉市で開催した。

(4) 広報誌『飛躍』の創刊

本連盟が実施している事業、将来の方向性などを父兄、指導者、関係機関に広く情報を提供するために、平成 4 年 4 月 1 日より広報誌『飛躍』を創刊し、各支部を通じて配布した。

(5) 10 支部から 14 支部に再編

10 支部のうち、習八ブロックを習志野市、八千代市に独立。内房ブロックから市原市が独立し、内房ブロックをかずさに名称変更。北総ブロックから四街道市、印旛郡市を独立させて印旛支部とし、14 支部体

制に再編した。

(6) 少子化対策と少年野球の底辺拡大

少子化と多種スポーツの躍進により野球人口の減少もあり新たに設置した開発普及部に少年野球の底辺拡大と低学年を対象にした大会開催を指示した。

① 友遊ボールの考案と大会の創設

第一弾として、鈴木会長が考案した応援用メガホンと柔らかいゴムボールを使用し、少年野球に移行するまでの間、父母と子供たちが一緒に遊べる「友遊ボール」を開発した。ルールも未完成であったが、試験的に平成5年11月13日、6チームの参加を得て、「第1回友遊ボール大会」を開催した。以降、競技規定を制定し、現在では県内3地域で予選を行い、代表24チームでチャンピオン大会まで行うメインイベント的な大会となっている。(予選参加100チーム超え)

② 低学年大会の創設(ロッテ旗争奪大会)

平成7年11月13日、小学4年生以下を対象に、1試合5インニング制の「第1回千葉県少年野球低学年オープン大会」として試験的に実施したが、現在では大会特別規則を制定し、32チームが参加する県大会として位置づけしている。

(7) 審判指導者講習会の創設

平成6年2月13日、審判の技術向上を目指して、県高野連審判部を講師として招き、実技と座学等の「第1回審判指導者講習会」を実施し以後継続して開催し今日に至っている。

(8) 共催大会の運営

千葉県野球協会が単独で全日本学童軟式野球千葉県大会、関東学童軟式野球千葉県大会を開催していたが、本連盟の登録チームが出場する関係上、同協会と協議して本連盟と共催で運営することになった。

安定期 (H8～H12)

(1) 規約の全改正及び諸規定の制定

事務局組織では10部制を廃止して、1局4部制(事務局、総務部、経理部、事業部、審判部)にした。大会等の運営・実施を効率よく行うため、事業部、審判部に部会を設置、支部及び地区の区分、加盟登録、大会の出場基準、登録申請等の様式を整備し、平成9年3月1日、新たに規約を制定した。

(2) 役員・代議員の選任規定の制定

地区から推薦される役員または代議員の割り当てに関する基準があいまいであり、他薦・自薦があったり

したので、役員の選任、代議員の選任の各規程を制定して要覧に掲載し、ガラス張りの体制を敷いた。

(3) 大会出場基準規定の制定

県大会に出場する各地域の枠は、発足当時の共通枠から力関係の枠に変化し推移してきたが、地域の登録チームの増減によって出場枠は当然変化するべきであり、この出場枠を変えるには反対意見も多く、「当分の間、枠の既得権を尊重する」ことで合意され、この大会出場基準規定が制定され、誰でも知りえるよう要覧に掲載して情報公開を図った。

(4) 投手の投球インニング制限

従来までは、同一投手が1試合7インニング、1日2試合がある場合は14インニング、延長戦がある場合も同一投手が投球することができた。

しかし、将来性のある同一投手を、中学、高校、大学、社会人、プロ野球まで活躍できる選手に育成していくためには、投球インニングを制限し、かつ健康管理に配慮して「少年野球のみで選手生命を潰す」ことは避けるべきであるとの観点から、投球インニング制限には反対する意見も多かったが、県大会に限り同一投手の投球回数を1試合5インニング、2試合目も5インニングとし、1日10インニングに制限することで合意された。県大会はできる限り1日1試合の組み合わせとし、準決勝・決勝は2試合とした。

低学年大会においては、同一投手の投球回数を1試合3インニング、2試合目も3インニングとし1日6インニングに制限した。

(5) 『要覧』の創刊配布

『要覧』には、役員名簿、チーム名簿、規約、諸規定、大会特別規定、指導者受講者名簿、審判指導者受講名簿等の全てを掲載して全登録チームに配布した。この一冊によって、連盟の組織、出場枠、大会ルール等が把握できる情報公開をすることができた。

発展期 (H13～H14)

(1) 新法人移行に関する決議

昭和46年11月14日、館山市の北条小学校グラウンドにおいて「第1回千葉県少年野球大会」を開催し、その後、少年野球千葉県選手権大会、千葉県少年野球低学年大会、千葉県友遊ボール大会、指導者講習会、審判講習会、各種協賛団体等の大会を開催し、青少年の健全育成に努めてきたが、平成14年2月23日開催の第31回通常総会において、本連盟を発展的に解消

し、新たに新法人である「特定非営利活動法人 千葉県少年野球連盟」を設立することを決議した。

(2) 連盟の解散

新法人設立に伴い「千葉県少年野球連盟」は、32年間続けてきた事業活動を、平成14年8月31日付けをもって幕を閉じた。

本連盟が、今日まで活動した事業は、新法人「特定非営利法人 千葉県少年野球連盟」へとその事業が引き継がれることとなった。

2

地域ブロック区割りの変遷

昭和46年鈴木宗平氏が第1回千葉県少年野球大会開催に向けて、参加希望する少年野球チームを県下市町村8ブロックに区割りをを行い、予選を勝ち抜いた8代表による県大会を実施した。当時、千葉県野球協会の地域割りは、県下8ブロックに区分され、これを採用している。

昭和60年には、チーム数の増加している千葉市、船橋市を独立させ10ブロックとし、平成5年には習八地域を習志野市、八千代市に、葛南地域から市川市を、内房地域から市原市を、北総地域から印旛郡市を独立させて14ブロックとした。

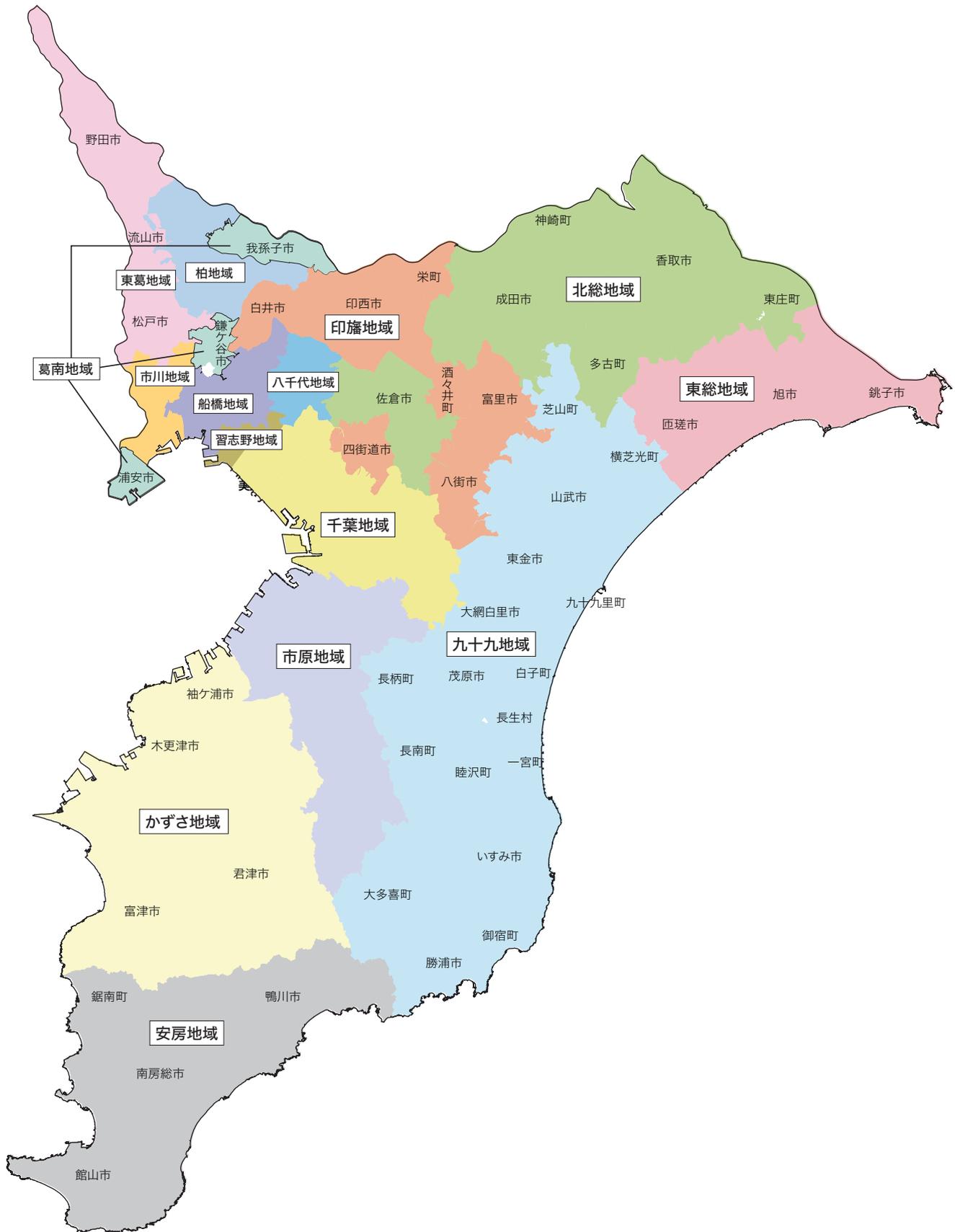
また、内房地域から市原市が独立したことにより内房地区を君津地域に名称変更したが、君津市と誤解されたため「かずさ」に変更、南総地区は九十九地区に名称を変更した。

平成19年には、柏市の人口増に伴い葛南地区から柏市が独立し、令和3年現在、地域ブロックは

1. 千葉
2. 船橋
3. 習志野
4. 八千代
5. 市原
6. 市川
7. かずさ
8. 安房
9. 九十九
10. 東葛
11. 柏
12. 葛南
13. 東総
14. 北総
15. 印旛

の15地域となっている。

現在の千葉県少年野球連盟 15 支部



3 登録チームの推移

連盟は令和2年に創立50周年（旧連盟32年間、新法人18年間）を迎えた。

この間、登録チーム数推移は、昭和56年の1,528チームが最高であり、この年をピークに年々減少している。大会出場枠は、地域の登録チーム数によって地域出場枠が確定するため、地域・支部組織は、積極的に新法人へのチーム登録を行った。

その結果、平成2年に441チームと500チームを下回ったが、平成6年から登録500チーム以上に回復、新法人の移行時の平成15年は登録606チームまで増加した。しかしその後、再び減少傾向になり、平成29年500チームを割り込んでから漸減傾向は止まらない。

資料「NPO法人千葉県少年野球連盟のチーム数及びクラブ員の変遷」を参照されたい。

今後も友遊ボール競技の推進、特に地域ブロック大会、チャンピオン大会を盛り上げることを通じて、少年野球人口の拡大と既存チームの維持、活性化を進めていきたい。

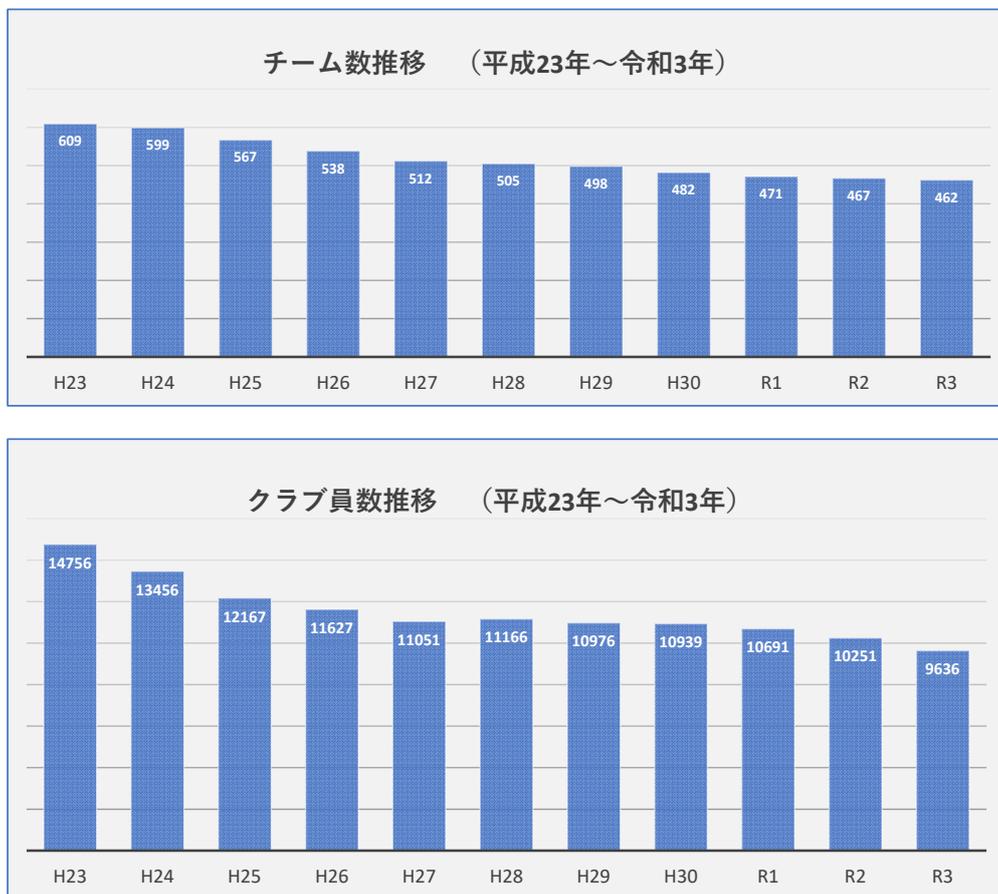
4 指導者講習会

本講習の趣旨は、少年野球の指導者育成にあたる指導者の養成並びに青少年健全育成、団体活動、組織育成の推進者としての指導力向上を図ることを目的に、平成5年より実施し、これまで多数の指導者が受講して県内各地で活躍している。

指導者が現在求められていることは、野球のルール、技術、戦術の他に、怪我の予防や救急法、スポーツ医学の知識、少年期の体の成長などである。

また近年は温暖化による気温上昇に伴い、高温や多湿の環境下で起こる全身の熱障害である熱中症や体温調節機能障害を伴う熱射病にも注意を払う必要があり、指導者講習会では、「安全のための方策、管理と応急処置」講師として成田日赤病院、スポーツ医学として川鉄病院整形外科、高校野球からは「高校野球指導者の実践」、「実践指導・指導方法」、中学野球では「中学野球の指導方法」等、それぞれの部長、監督に登壇願って幅広い研修を実施している。

NPO 法人千葉県少年野球連盟のチーム数及びクラブ員の変遷



講習会場が平成20年まで北総地域成田市の国際文化会館で開催されてきましたが、受講者が1,000名を超える状況になり会場の収容キャパや駐車場の問題が発生、検討の結果地域連盟を南北に分け隔年開催、南（かずさ地域 君津市文化ホール）北（北総地域 成田国際文化会館 栄町ふれあい会館）で開催となる。

そして平成21年度分離南部地域開催724名受講、22年北地域1,369名受講、と年々受講者が増加子供に野球を指導するためには喜ばしい傾向となってきた反面、年々受講者が増加し会場確保・運営に苦勞することになってきた。理事会でこの問題点を解決するため委員会を立ち上げることになった。

令和2年、3年と新型コロナウイルス（COVID 19）の影響で中止となった。令和2年3年に認定期限が失効する者は、特例措置とし期限延長とすることとした。この講習会は、野球素人の父親を指導者にして親と共に子供を野球に引き込む手段の一つと考えられる。

なお、全日本軟式野球連盟（全軟）は2024年（令和6年）には認定指導者制度をスタートする予定である。全軟は、公的機関（スポーツ省、スポーツ少年団等）の講習会修了者も全軟に登録可とする方針。認定指導者は、チーム最低1名以上必要。1名だと試合当日その者が病気、仕事で出られない場合を考慮し最低2名受講させるように指導している都道府県もある。当連盟の認定指導者講習会は、30回を数える誇れる認定制度でありこれをどのようにして全軟に認定させるかが、大きな課題である。

5

審判講習会

野球規則の習得と技術の向上を目的に、各地域の少年野球の指導審判員を対象に、平成6年2月に初めて開催・継続してきたが、令和2年度（令和3年（2021年）2月）の講習会は、新型コロナウイルス感染症予防の為、中止となった。

指導者審判員は、千葉県高校野球連盟審判部の諸先生の指導に基づき、野球規則の改正点・難しいルール解釈の座学や実技指導の講習を受けている。

講習会場は中学校の大会のグラウンドを借りて転々としていたが、平成13年2月より「袖ヶ浦市民会館及び袖ヶ浦市営球場」を、直近の審判講習会は「袖ヶ浦市 今井球場」「平岡多目的球場」を会場として開催している。講習会は、座学のほか実技指導では投手の投球判定、一塁、三塁のライン上のフェア、ファールの判定及び動作、各塁間のアウト、セーフの判定と動作、投手のボックス等数多くの知識を身につけるため、指導審判員は、講習会の開始から終了まで真剣に取り組んでいる。受講した指導審判員は、各地域において審判講習会を開催し、各地域での審判員指導にあたっている。



6

千葉県少年野球大会の変遷



安房郡内での初めての少年野球チームの結成

昭和 45 年鈴木宗平氏が安房郡内で初めて少年野球チームを結成し、試合はいつでも紅白戦であった。木更津で遠征して初めての対外試合を行ったことを契機に県大会開催を模索し、千葉県教育委員会等の関係機関及び関係者の協力を得て実施実態調査を実施した結果、県内に結成されて少年野球チームは 11 時に 39 人ソフトボール 30 チーム合わせ 69 チームが活動していることが判明した。

当時の少年野球チームの状況

当時の新聞(千葉日報)によると小学生の少年野球チームは各地で結成され、日曜日など他チームと交歓試合が行われていたが、対外試合を禁止されている小学生のため組織だった大会は行われていなかった。今回の大会は、これまでバラバラだった各チームを集め組織を結成しようという機運の盛り上がりと館山市の少年野球チームが県内の各チームに呼びかけたことから第 1 回の大会になったと記されている。



初めての少年野球大会

大会は、北条小学校、県立館山高校の両グラウンドで、館山野球スポーツ少年団振興会、千葉日报社の主催で大会の名誉会長は水田三喜男代議士、大会会長は市三軒町連合会長の島田金次氏があたり、国鉄館山駅に到着した参加チームは館山一中のプラスバンド部員 30 名の演奏を先頭に、ボーイスカウト館山団の先導で試合会場に入場した。

大会は、館山第一対東金、浦安対船橋、館山第二対習志野、木更津対成田で、初の第 1 回県大会が幕を開け、記念すべき大会優勝は成田チームが飾り、これがスタートラインの第一歩を歩み、令和元年度第 40 回を数える大会へと成長し、現在全国に誇れる「千葉県少年野球大会」(千葉日報杯)となった。

大会の成績

直近の本大会成績は当連盟ホームページ、大会結果の「千葉県少年野球大会(千葉日報旗戦)」にてご参照いただきたい。

7

少年野球千葉県選手権大会の変遷



大会の誕生

夏の千葉県少年野球大会（千葉日報杯）が「子供たちの甲子園」として定着してきた頃、この大会をさらに発展させ年間事業として夏から秋の11月の大会を企画したが、後援するスポンサーが未だ決定してない状況であった。

たまたま当時本連盟の副会長であった鈴木宗平氏の義父の知人、川崎製鐵（株）原口栄治氏が千葉県労働金庫の理事長であったこともあり、夏の第15回千葉県少年野球大会（千葉日報杯）を見学していただいていた折にご協賛をお願いしたところ快諾が得られた。

これによって昭和60年11月10日、第1回の少年野球千葉県選手権大会（ろうきん旗争奪大会）が誕生し、令和2年をもって第36回を数える歴史ある大会と成長した。

本大会は同一チームの小学6年生が少年野球生活最後の県大会として、日々鍛錬練習に取り組んだ成果を発揮できるかどうか、真価が問われる大会としても、野球関係者やご父兄の注目を集め、楽しみな大会となっている。

大会出場枠の選定

大会出場枠は。第1回大会は19チーム、第2回大会から第8回大会までは32チーム、第9回大会40チーム、第10回大会45チーム、第11回大会48チーム、第12回大会49チーム、第13回大会58チーム、第14回大会59チーム、第15回大会58チーム、第16回大会60チームと出場枠も変遷したが、第17回大会から登録チーム数に基づいた出場基準を定め、近年はこれに基づき総出場枠64チームとして登録チーム数の比例配分としてきたが、平成27年の第31回大会より総出場枠48チームとなり、現在にいたる。

試合時間の短縮

夏の千葉県少年野球大会の試合時間は1時間45分で制限しているが、秋の少年野球千葉県選手権大会は16時30分頃になると日も暮れ、白熱試合が日没コールドゲームになることや、第4回終了前についてはサスペンデッドゲーム（特別継続試合）として、翌日の1イニングのために長時間かけ試合会場に駆けつけなければならない。

特に敗戦濃厚なチームは、勝てる望みの薄い時は試合放棄棄権することがあり、これは子供たちの教育上あまり褒められた行為ではない。これらのすべてを解決するまでには至らないが、試合時間を短縮することにより日没前までに試合が消化できると判断し、1試合時間を1時間30分として15分短縮した。

大会の成績

当大会成績は当連盟ホームページにて閲覧できるのでご参照頂き、今後の活動の励みにして頂きたい。

特別交流大会開催の経緯

令和1年の12月頃から世界的に流行し始めた、新型コロナウイルスが日本にも感染拡大、ダイヤモンドプリンセス号に端を発し国中に猛威。令和2年の野球シーズンが始まる3月、4月には千葉県において1日約400人、5月には約1,000人近い感染者が発生。このような状況により千葉県に緊急事態宣言が発令され、そのため県内市町村において、グラウンド等公共施設の使用禁止措置が執られる事により4月から9月までの県大会及び上部大会すべて中止となった。

秋口になり幾分コロナ発症減少傾向が現れはじめたのを機に、10月からの3大会（秋季女子大会、ろうきん旗大会、地域対抗6年生大会）の開催を理事会で決定した。ろうきん旗大会開催について、協賛側、の中央労働金庫と協議の結果、コロナ感染拡大の懸念から今年は協賛できないということで、やむなく当大会は中止としたが、6年生の子供たちにとって野球の練習や試合が出来ないまま1年を終わらせる事は非常に忍びなく、連盟独自に48チームによる特別交流大会を実施することにした。幸いにも選手はじめ関係者にコロナの発症もなく成功裏に終わることが出来た。

また、令和3年は令和2年よりコロナ発症者が増加、千葉県においても1日1,000人超の日が続きそのため、緊急事態宣言が再度発令され各市町村において公共施設の使用禁止措置が執られ、練習や試合が出来なくなった。2021年も中央労働金庫様の協賛が得られず、選手（子供たち）のため48チームによる連盟独自の交流大会を11月に実施した。

8

低学年大会の変遷



大会創設の経緯

少年野球人口の減少により解散の危機にさらされるチームの救済策として、平成5年度から小学校3年生以下の子供を対象に「友遊ボール大会」を開催し、子供達、父兄、関係指導者等からも好評だったので、その救済策の第2弾として小学校4年生以下の「低学年」を対象とした少年野球大会の企画立案を実施し、平成7年度に千葉ロッテマリーンズの後援を得た試験的な大会として「第1回千葉県少年野球低学年オープン大会」を開催した。

子供の多い時代は、大半の少年野球チームの入部は小学校3年生から認められていたが、サッカーは幼稚園、小学校1年生から大会があり、ましてや、少子化ともなれば明らかに少年野球は部員獲得の段階で遅れを取っていたのが現状である。

これを打開するためにも、打って・走る、三振・四球はなし、お父さん、お母さんと一緒に遊べる「親子の触れ合い」ができる「友遊ボール」競技は、まさしくヒット商品であり、この後に続くためにも「低学年大会」に必要となってくる。

特別ルールの設定

さて、「低学年オープン大会」の翌年平成8年3月には、同一投手の投球は3イニング、無番コーチ（2人）

を配置し、コーチーズボックスでの走塁指導、イニング間の投手の捕球、低学年部員が少ないチームの救済策としては合同チームの編成ができることなどをルール化し、第2回大会から本格的な「千葉県少年野球低学年大会（ロッテ旗争奪戦）」の開催となり、少年野球人口増の底辺拡大をはかることができた。

出場枠の改訂

当初の地域出場枠は低学年振興の意味合いから、14地域均等の2チームプラス4地域（4チーム）の32チームとしトーナメントにしやすいようにした。プラス4チームは理事会で毎年4地域を取り決め、大会を行ってきたが、地域連盟での低学年大会に多数参加している地域と、少数しか参加していない地域の出場枠が同じである不公平感から、平成28年（2016年）第22大会から、県連登録数、地域低学年大会出場数等を勘案、係数をかけ出場数を32チームにし、同時に各地域から最低1チームは出場するように決定した。

なお、令和元年、令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大により、大会はやむなく中止とした。

大会の成績

近年の低学年大会の試合結果等は、当連盟のホームページにて閲覧が可能である。

9

友遊ボール競技の変遷



考案の動機

子供の少子化、他種スポーツとの躍進により、県内各地域の少年野球チームは野球人口の減少によってやむなく統廃合など行い、少年野球チームの維持又は存続に努力をしてきたが、一向に少年野球人口の減少に歯止めがかからない状況であった。

これを危惧した鈴木会長が小学3年生以下の低学年を対象とした「友遊ボール競技」を考案し、安房地域を中心に大会を開催してこの競技に普及に努めてきた。

初のお披露目

急激な野球離れ現象の打開策として、平成5年には、本連盟の組織改革を実行して、「友遊ボール普及部」を創設した。

広報誌「飛躍」第3号によれば、競技ルール案として、バッテリーから5m、投手板は半径1mの円、塁間が15mで一塁と三塁とホームの三角ベースであり、盗塁、三振、四球はなし、3アウトで交代、5回戦、チーム編成は5人～10人、投手は下投げ、打者は手で打つことなどが検討され、一般の方への「友遊ボール競技」のお披露目は平成5年10月31日で、この間、ボール、バットの選定、競技ルールも確立させ、千葉県青少年団体連絡協議会主催による第4回アウトドア・ファミリーフェアのニュースポーツ体験の部に、大会と普及活動を船橋市の県民の森で、新しい試みとして全国に先駆けて、「千葉県でテストケース」として実施した結果、220名以上の子供たちの参加があり、大いに盛り上がったと記されている。

同年11月には、千葉ロッテマリーンズの後援を得て各地域からのオープン参加ではあったが、6チームが参加した「第1回友遊ボール大会」を開催し、以降毎年継続して開催してきた。

この友遊ボール競技の普及に伴い、各チームの部員減少傾向に歯止めがかかった。

平成24年友遊ボール大会を千葉県農業組合中央会（JA千葉中央会）様が応援協賛して頂き、第1回JA千葉中央会旗チャンピオン大会を実施するようになった。

県大会への出場数が増加することに従来通りの出場だと大会開催が困難となる事が予想されたため、県を三ブロックに分け、西ブロック（野田）、中央（我孫子）、東（袖ヶ浦）で大会を実施。三ブロックで上位8チームが袖ヶ浦市百目木公園野球場でチャンピオン大会を実施。その後中央（我孫子）の開催地を千葉市フクダ運動公園に変更開催している。

コロナ禍の影響で令和2年、3年のブロック大会及びチャンピオン大会の開催を中止した。

底辺の拡大

各地域の指導者向けにイラスト入りの競技規則を配布して「友遊ボール競技」の普及促進を図り、かつ、部員不足に悩んでいたチームが「友遊ボール」を取り入れた結果、入部する低学年が増えたとの「感謝」の言葉をいただくなど、徐々にではあるが、この「友遊ボール競技」が各地域へ浸透し、底辺の拡大に繋がっていった。

大盛況の県大会友遊ボール競技

県大会は平成5年第1回オープン大会から第9回大会まで千葉県軟式野球場で開催してきたが、第10回大会から57チームが出場したため、試合会場を袖ヶ浦市の百目木公園に移して、それ以来毎年、同公園で開催している。

しかし、いくら広い百目木公園（現在6面）でも参加チームを制限しなければならないほどの希望があり、近年では予選となる各地域の「ブロック大会」を勝ち抜いたチームが、本選の「チャンピオン大会」に出場している。近年のチャンピオン大会では、参加チームを4つのブロックに分け、その頂点に輝いたチームがさらに優勝トーナメントへ進み、友遊ボール全参加チームの頂点である優勝チームを決定している。チャンピオン大会の結果は、当連盟ホームページ「大会結果」にてご確認いただきたい。

規則の整備と周知

ルール改正は低学年であることを念頭に、安心安全に競技でき、かつ、「親子のふれあい」の為、ご父兄と一緒に参加できることに重点を置いてきた。従来の規定に加え「みなしライン」の設定、塁間でのアウトは全てフォースアウト、ホームベースから5mラインを設定し、打者がボールを打つまでライン前での守備ができないなどの安全対策を講じた。

直近の改正としては、当初お父さんも打者として参加できたがホームランが出すぎるため、お父さんの打者禁止、お母さんの守備位置の限定（一塁及び捕手のみ）、子供たちに伸び伸びとプレーさせるため、バントを禁止とし5メートルライン内はファールとした。

本連盟のホームページにて「千葉県少年野球友遊ボール大会競技規則（本大会の趣旨と出場資格・チーム構成）」は閲覧可能である。大会開催の関係者におかれては、本競技ルールを一層、周知して頂くとともに、競技する低学年選手達が混乱することなく、楽しく「友遊ボール競技」をプレーできるよう、ご協力を頂ければ幸いである。

10

地域対抗6年生選抜大会の変遷

大会創設の経緯

かずさ地域は、平成4年から袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市の各市から選抜された6年生による「君津地区少年野球選抜大会」を県内地域に先駆けて実施してきた。

これを受け、千葉県全体を対象として、6年生最後のオールスター・ゲーム大会として県内各地域を代表とした選手による選抜大会ができないか模索していたが、平成14年2月開催の総会において正式に新法人NPOへ移行することが承認決定されたこと絶好の機会と捉えて、同年8月、千葉地域の藤平靖生理事に選抜大会開催を打診し、賛同を得て同氏に理事会に提案、同理事会も全員一致で賛成して新法人移行記念として選抜大会開催することを決定した。

記念すべき選抜大会の開催決定までは良かったが、球場の確保、選抜方法、大会特別規則など決定しなければならない事案があったが、当時かずさ地域の飯塚教夫理事が袖ヶ浦市内の球場を確保、各地域理事は選抜方法の検討、大会特別規則は君津地区少年野球連盟の選抜大会規則等を採用して、慌ただしい大会ではあったが平成14年11月30日、袖ヶ浦市営球場で記念すべき「第1回千葉県少年野球地域対抗6年選抜大会」が開催された。平成19年11月24日開催の第6回大会から株式会社幕張メッセ様の協賛をいただき、開会式で優勝旗と準優勝カップを贈呈して頂いた。

大会特別規則も、同一投手の投球イニングは1試合3イニング、ベンチ入り選手は20名とし、選手は2試合で全員（20名）を試合に起用することを条件とした。

地域対抗6年生大会の歩み

なお出場チーム数については、15地域各1チームと千葉市の1チームを加えた、16チームによりトーナメント大会を開催。また1回戦敗者チーム同士の交流試合を実施していたが実施が困難となったため、平成24年大会から取りやめとした。更に6年生最後の県大会であり、記憶に残る素晴らしい球場で開催しようということで、照明及びスコアボードにスクリーンがある4球場を使用する為、参加費の変更が行われた。

また、令和2年の大会は連盟創設以来県主催大会初の鋸山越えの安房地域代表チームが優勝した。

12年間応援協賛の「(株)幕張メッセ」様がコロナ禍の影響で2020年大会をもって協賛を退かれ「(株)幕張メッセカップ大会」は終了した。

2021年より新たに「(株)新昭和」様が協賛応援して頂いた。2021年11月27日、第一カッター球場(習志野旧秋津球場)にて開会式が開催され、熊谷千葉県知事はじめ多数の来賓を迎え、「新昭和カップ大会」が行われた。決勝は、「成田ナスパ球場」で行われ、初栄冠は印旛地域選抜チーム、準優勝は市原選抜チームであった。



11 高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会



財団法人全日本軟式野球連盟(予選:同連盟千葉県支部・千葉県野球協会)では、小学生チームのクラスを「学童部」とし、全国で約1万5千チームの登録がある。「日本マクドナルド株式会社」が冠スポンサーであり、各都道府県で勝ち抜いてきた強豪チームが出場する「高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会」は小学生の甲子園と呼ばれ、夢の大会となっている。

第1回大会から第7回大会までは、本県の予選を勝ち抜いたチームが関東大会へと出場し(第5回大会を除く)、同大会を勝ち抜いて全国大会に出場したが、昭和63年により各都道府県代表にフルエントリーとなり、平成7年に高円宮憲仁親王殿下を名誉総裁にお迎えし、平成9年第17回全日本学童軟式野球大会において高円宮賜杯が下賜された。

本県の「高円宮賜杯 全日本学童軟式球大会 千葉県予選」は令和3年をもって第41回大会を迎え、歴史のある大会となった。

本県勢が全国大会出場できたのは第5回大会からであり、第5回全国大会で初出場初優勝の偉業達成した「浦安キングスター」、第15回全国大会で準優勝した習志野地域の「袖ヶ浦ボーイズ」、第23回全国大会でベスト4となった市原地域の「ちはら台ファイターズ」に続き、千葉県勢の今後の活躍が期待される。

近年の本県代表チームはホームページにて「全日本学童軟式球大会」の大会結果として閲覧可能である。

12 関東学童軟式野球大会



関東学童軟式野球大会は、東京中日スポーツ・東京新聞及び関東軟式野球連盟連合会の主催で一都七県のチームが東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、山梨、群馬で各都県の予選を勝ち抜いてきた代表各県2チーム、計16チームが東京新聞カップを争奪する大会である

昭和53年に第1回大会が創設され、第19回大会までは各県代表1チームの計8チームでの大会であったが、第20回大会から各県代表2チーム計18チームのカップ争奪戦となり、令和3年をもって第44回を数える歴史ある大会と成長している。

昭和55年には南関東学童軟式野球大会（第1回）が創設され、準優勝チームがこの大会に出場していたが、平成8年度第17回大会をもって幕を閉じ、関東学童軟式野球大会の第20回大会から優勝、準優勝チームの2チームが県代表として出場することとなった。

当大会での本県チームの指導者、選手の今後の活躍を期待するものである。

当大会への本県代表チームは、ホームページの大会結果にある「関東学童軟式野球大会 千葉県大会」を参照されたい。

13 関東学童軟式野球秋季大会



「日本ハム（株）」は、「食」と「健康」を最大のテーマに掲げスポーツ振興にも注力、日本ハムファイターズ（プロ野球球団）の設立、運営している。それに関連した身近な貢献活動として、関東軟式野球連盟協会の協力を得て、関東一都七県、の学童部の新人戦を対象に「日本ハム関東学童軟式野球秋季大会」を企画し、冠スポンサーとして平成11年から本大会を開催、令和3年をもって第23回を数える大会へと成長した。

一都七県の新チーム（小学校5年生以下）のうち、東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨、栃木の各都県を勝ち抜いてきた代表8チームが「日本ハム旗」を目指し競い合う大会であったが、近年の社会情勢の変化に伴い、第23回大会をもって「日本ハム（株）」様は協賛から退かれることになった。

令和4年度、第24回大会からは、茨城県に本社を持つ住宅メーカーである「（株）ノーブルホーム」様に協賛して頂く予定である。

直近の当大会への本県代表チームについては、ホームページの大会結果にある「関東学童軟式野球秋季大会」を参照されたい。

14 NPB ガールズトーナメント



大会参加の経緯

当大会の発足は、平成 25 年に、千葉県野球協会から NPB ガールズトーナメントに参加しないかとの要請で、各地域で女子チームのあるところ、または参加できるところの 4 地域から選抜 4 チームが参加。初の女子大会を船橋市高瀬球場で開催する。初優勝は「オール船橋プラス」で第 1 回 NPBCAP ガールズトーナメントに出場、沖縄をはじめ全国から 30 チーム参加し、東京ドームで開会式、5 会場で大会が行われ、千葉代表「千葉なのはなガールズ」は、決勝戦で惜しくも敗れ準優勝となった。

県連主催大会の創設

平成 26 年から連盟も本格的に女子大会に本腰を入れ連盟主催大会とした。普段各チームでの女子選手の存在は、上手な選手は男子選手と競い、試合にも出られるが、体力、技量に劣る選手は、十分に試合で出られずにいる。ところが、女子大会になると、自分たちが主役とばかりに大きな声を出し元気はつらつとプレーをした。連盟主催第 1 回大会は 5 チームが参加し高瀬球場で開催された。優勝チームは NPB ガールズトーナメントに、準優勝チームは関東大会に出場することになった。

第 3 回大会から、JA 共済連千葉県本部の協力協賛をいただき 11 チームの地域選抜チームが参加し、初の JA 共済旗を手にしたのは千葉ドリームガールズ(千葉地域)であった。

また、各チームへ女子選手の加入促進のためと併せて、半年後の女子選手の著しい成長を見たく、平成 28 年より秋に女子大会を開催することとなり、ナガセケンコー

(株)、トップインターナショナル(株)の協力協賛により第 1 回ナガセ・トップ旗大会が安房地域(千倉球場、館山市民球場等)で開催され、初の優勝カップは柏女子選抜が手にした。素晴らしく成長した選手の中には、ロッテマリンジニアチームに選抜され、12 月に開催される NPB ジュニア大会に出場する選手も出てきた。

令和 2 年の女子大会は、コロナ禍の影響で春の第 7 回大会は中止とし、秋の大会のみとし 13 チームが参加し千葉ドリームガールズが優勝、令和 3 年春の第 8 回大会は 8 チーム参加。秋の大会はコロナ禍のため中止となった。

過去、この大会で活躍した選手が高等学校女子野球チームで多数活躍している。今後の活躍が大いに期待される。

15

NPB12 球団
ジュニアトーナメント大会の変遷

大会の趣旨

「NOB12 球団ジュニアトーナメント」(ENEOS CUP)は、社団法人日本野球機構とプロ野球 12 球団が連携し、「子供たちが“プロ野球への夢”という目標をより身近に持てるように」という考えのもとに企画され、平成 17 年に第 1 回大会を開催した。

この大会は、子供達が野球に取り組む「目標」の 1 つとして「日頃の成果」を「特別な舞台」で発揮する機会を提供することで、さらなる野球への意識向上を図ることを大きな目的として開催し、プロ野球選手のような夢の体験と共に、野球というスポーツを通じて、喜びや悔しさ、そしてさまざまな経験をもとに、これからのそれぞれの夢に挑戦を願い、また、この大会を継続的に実施することで、子供たちの「夢への挑戦」を後押ししていきたいとの趣旨で開催している。

この大会は令和 3 年(2021 年)をもって第 17 回を迎える大会となった。千葉ロッテジュニアの初芝初代監督、平井監督、武藤監督、塀内監督と四代の監督の下、選ばれた選手は一生懸命練習をし、良い結果を出してきた。

大会の開催地

大会の開催地は、福岡ソフトバンクホークスの福岡ベイパイヤーズ球場、北海道日本ハムファイターズの札幌ドーム球場、宮崎県営球場(読売ジャイアンツキャンプ球場(過去 1 回))、と開催球場を変え大会を行ってきたが、2020 年からは新型コロナのため、横浜市の横浜ベイスター球場と東京都の神宮野球場で毎年年末の 3 日間開催された。

ロッテジュニアチーム

第 1 回は、千葉県野球協会から船橋市のホワイトビーストロングチームに出場の要請があり、このチーム中心に県内数チームの選手 20 人で出場した。第 1 期生出身者の一人が、泉谷メッツ出身、日本ハムファイターズの近藤健介選手である。

その後、ジュニア選手の選考日変更や、日報旗大会ベスト 8 チームからの選抜に異議が出た為、地域連盟の推

薦や一般募集選考に重きを置いた。また一次選考には 700 人～800 人の応募があった。過去には、一般公募に兵庫県神戸市や宮城県から応募した選手もいた。コロナ禍の影響で 2020 年より一般公募のみとなり、一次選考は書類選考、二次選考は、投手、捕手、野手部門ごとの実技選考とした。三次は、約 40～50 人による試合形式の選考で 16 人が選ばれる。

ロッテジュニア出身者のその後

2005 年(平成年)から 2015 年(平成年)までの 10 年間(10 大会)、ロッテジュニア出身者は、高等学校野球、大学野球、社会人野球で活躍をしている。この 10 年間でプロ野球にドラフトされた選手は 15 人おり、第 1 期生の中には日本ハムファイターズの近藤健介選手がいる。また、2021 年のプロ野球ドラフトにおいて、北東タイガース(鎌ヶ谷市)出身の池田来翔(らいと)君が初めて千葉ロッテマリナーズに 2 位で指名され、今後の活躍を期待されている。

12 球団ジュニアチーム出身者の
プロ野球ドラフト状況

	ドラフト数
千葉ロッテマリナーズ Jr.	15
オリックスバファローズ Jr.	9
福岡ソフトバンクホークス Jr.	8
中日ドラゴンズ Jr.	8
日本ハムファイターズ Jr.	7
東京ヤクルトスワローズ Jr.	5
横浜ベイスターズ Jr.	5
阪神タイガース Jr.	5
広島東洋カープ	3
東北楽天ゴールデンイーグルス Jr.	2
読売ジャイアンツ Jr.	2
埼玉西武ライオンズ Jr.	1

※千葉ロッテマリナーズは地域連携の一つとして、県下の 12 自治体と「フレンドシップ協定」を結んでいる。その内容の一部は下記の通りである。

- ・千葉市(本拠地)
- ・鴨川市(秋季キャンプ地)
- ・市川市、市原市、浦安市、柏市、佐倉市、袖ヶ浦市、習志野市、成田市、船橋市、茂原市(千葉県内二軍開催予定地)

連盟のこの10年を ふりかえって

連盟がこの10年間目標として歩んできたことは、子供たちの野球離れ、特に野球の底辺である少年野球への参加希望者の減少。減少となる原因についての話し合いである。

一つ目としてチームの運営管理（指導方法、運営方法）

二つ目として野球の面白さを教える事

三つ目として障害の発生しない安全な野球指導でないかと考えた。

そこで一つ目の、運営管理はチームで行っている当番制（例 お茶当番 弁当当番 輸送当番等）の廃止、朝から晩までの長時間練習等については抽選会ごとに理事長の挨拶の中で協力要請、各地域においては各理事が自連盟で話し合い解決することとした。これについては各クラブとも自粛又は廃止傾向にありよい方向に進展している。

次に指導者教育であり、これは認定指導者講習で教育。この頃、世の中指導者の不祥事が続出。県教育界で障害者教育の一人者を講師に、子供の理解力、低学年、高学年児童の心理を、また少年野球指導者は高校や大学、社会人野球で受けた自分の経験で指導するものが多く理論的に指導することの不足感があり、そこで講師には全国でバッティング・ピッチング理論・実技指導のエキスパートを講師に招いた。また、実技指導は高等学校の理論派の先生の実技指導。以前は受講生約1,000名を3班に分けグラウンドで実施していたが効果がないので会場（ホール）内で3人の先生に項目ごとに受講者を参加させての講習に切り替えた。指導者の資質の向上と講習内容の充実を図った。講習内容をよく理解しチーム運営を実施しているチームは充実して活動している。この講習会は、全国の少年野球連盟で唯一我が千葉県少年野球連盟だけが実施している誇れる事業。なお、全国軟式野球連盟も指導者認定制度を計画2024年には全国的に確立する計画である。

ところで皆さんは、認定指導者講習会の誕生の謂われをご存じですか？

平成4年（1992年）連盟会長の鈴木宗平氏（接骨師）が、子供に安全、安心のもとに野球を指導させるためにはと、指導者の資質の向上が必要と考え講習会を立ち上げた。

講師には、千葉大学の守屋整形科教授、プロ野球OBの山内氏などの講師、当初はテキストもなく幼稚な講習会であったがスタートした。なお、テキストを使用するようになったのは、2001年度からで筆者が講師の先生から頂いた原稿を切り貼りしながら編集し職場の印刷機を借り800部手作りをしたことを、懐かしく思い出す。当初は、1日講習であったがその後、理事長時代に新規指導者は、2日間、更新者は1日講習に変更した。

更に受講者が1,000名を超えるようになり、開催会場に問題点が出て、平成21年（2009年）から地域連盟を南北に分け、場所をかずさ地域（君津市）と北総地域（成田市・栄町）に分け隔年で開催現在に至る。

二つ目として、では、どうしたら子供たちを野球に呼び戻せるかを理事会で話し合い友遊ボールの充実拡充を図る事しかない結論。そこで連盟15地域を2ブロック（東 百目木、西 野田）に分け各ブロック大会を実施。その後3ブロック、東（百目木）、中央（我孫子）・西（野田）ブロックに変更、更に中央会場の我孫子を廃止し千葉市に会場変更した。これにより各連盟で予選会を実施することになり友遊ボールをやる機会が多く増えた、各ブロックの優秀チームは、8月に芝生や木立の沢山ある百目木公園グラウンドでチャンピオン大会（JA千葉中央旗大会）を開催。友遊ボールをやることにより野球の面白さを子供たちに教え野球に引き込むように各チームが努力していることは皆周知のこと。

また、少年野球の子供たちに野球に親しみを持ってもらおうよう、夏の高等学校野球大会の各会場の初日第1試合の始球式を少年野球の子供たちにと相談を受け、理事会に諮り即受諾。当初は、初日雨だと始球式は中止となったが、その後初日雨の時は二日目に試合の始球式を行えるよう高野連に協力していただき、少年野球の消せない思い出の1ページを作ることが出来るようになった。その他として、地元プロ野球ロッテマリーンズの協力、野球教室やプロ野球観戦等、野球に関心、親しむ機会を沢山作って頂いている。

三つ目の、安全・安心での野球指導として連盟事業ではないが県下5地域連盟がオフシーズンに、千葉大学医学部、メディカルセンター、整骨師等先生方のご協力により子供たちの肩、肘の障害状況の検診を行っている。各会場で数人の肩・肘の障害が見つかっている。

鈴木宗平氏がゴムの引き伸ばし動作を繰り返すと、例えば500回で切断するが引き伸ばし動作を中断（休ませる）と切断回数は伸びるという事から投手の投げすぎは肩肘に負担がかかり障害を起こすと言う理由から、投手1試合5イニング制を取り入れた。その他、サドンデス（特別延長ゲーム）は、1アウト+フルベース。これは夏の試合においての子供たちの健康管理を重視した全国どこでもやってない画期的特別ルールである。

更に革新的に令和3年（2021年）からは、投手1試合4イニング制にW試合の場合は1日合計7イニングとした。また、コールド・ゲームも4回均等回とし、子供たちの健康管理を重視した特別ルールを作成した。全国軟式野球連盟も今年度から少年野球（学童野球）においては、試合イニングを7回から6回に変更。（但しコールド・ゲームについては依然として5イニングとしている。）

当連盟は、子供の健康等を考慮して数々の革新的な特別ルールを作り運営している。

飯塚 教夫（連盟元理事長・現顧問）

年表 50年のあゆみ

西 暦	年月日	項 目	主な内容
1970	S45	大会開催に向け協力要請	千葉県教育委員会等に協力要請を行う
1971	S46.9.19	少年野球チーム実態調査	県下の少年野球 39 チームを確認
	S46.11.14	第 1 回千葉県少年野球大会	千葉日報社の後援を得て 8 チームで開催
1972	S47.3.19	県連盟創立発起人大会	千葉県少年野球連盟の設立を承認
1973	S48.4.23	県連盟総会	会長に畠山暹氏、副会長に鈴木、森山氏
	S48.6.24	連盟規約の制定	組織基盤である規約を制定する
1978	S53.8.15	テレビ放映	第 8 回大会から千葉テレビで放映開始
1985	S60.6.26	連盟規約改正	理事長制の導入及びチーム登録の実施
		ブロックの区割り変更	8 から 10 ブロック (千葉、船橋独立)
	S60.11.10	第 1 回少年野球千葉県選手権大会	県労働金庫の支援により開催 32 チーム
1987	S62.8.13	少年野球グラフ創刊	千葉日報社が第 17 回大会より発刊
1990	H2.10.14	連盟創立 20 周年記念式典・祝賀会	市内のホテルで創立 20 周年記念式典挙行
1991	H3.4.27	連盟会長交代・鈴木宗平氏就任	初代会長畠山暹氏勇退、2 代目へ
		連盟規約の改正	事務局組織を 10 の専門部門制に改正する
1992	H4.4.1	広報誌「飛躍」創刊	関係機関、支部、登録チームに配布
	H5.2.21	第 1 回指導者認定講習会	指導者 85 名が参加
1993	H5.4.15	ブロックの区割り変更	10 から 14 ブロックに変更
	H5.11.13	第 1 回友遊ボール大会	6 チームの参加を得て、試験的に開催
1994	H6.2.13	第 1 回審判指導者講習会	県高野連審判部の指導、55 名の審判が参加
1995	H7.11.13	第 1 回千葉県少年野球低学年大会	オープン大会として試験的に開催
1996	H8.2.27	連盟創立 25 周年記念式典・祝賀会	市内のホテルで創立 25 周年記念式典挙行
1997	H9.3.1	規約の改正・諸規定の制定	事務局組織を 1 局 4 部制、役員選任規程等
	H10.3.8	諸規定の制定	慶弔見舞金規定、大会特別規則の制定
1998	H10.8.13	連盟新要覧の発刊	従来の要覧を改定「新要覧」を発行する
	H10.8.13	ベンチメンバー表配布	還元事業としてメンバー表を配布する
2001	H13.2.11	連盟創立 30 周年記念式典・祝賀会	市内のホテルで創立 30 周年記念式典挙行
2002	H14.2.23	連盟解散総会	新法人への移行、本連盟解散を決議する
	H14.8.31	「千葉県少年野球連盟」解散	新法人設立認証交付決定、新法人移行手続完了に伴い、本連盟解散
	H14.9.1	「特定非営利活動法人 千葉県少年野球連盟」事業開始	新法人の事業を開始する
	H14.12.7	第 1 回千葉県少年野球地域対抗 6 年生選抜大会	NPO 法人設立を記念し 15 地域の 6 年生選抜チームによる大会を開催
2003	H15.8.25	千葉県友遊ボール大会、開催場所変更	チーム数増加に伴い、千葉県総合スポーツセンター軟式野球場から袖ヶ浦市百目木公園に変更 (参加 57 チーム)
2005	H17.12.27	第 1 回 NPB ジュニア大会	プロ野球 12 球団のジュニア大会開催
	H19.4.1	会場出場枠の変更 (登録数で按分)	日報杯等の県大会の出場枠を 64 枠で固定
2007	H19.5.13	畠山氏 100 万円寄付	初代会長の畠山氏より本連盟に 100 万円寄付
	H19.10.5	鈴木宗平理事長、スポーツ功労表彰を受ける	鈴木宗平理事長が海渡文部大臣より受賞
	H19.11.24	幕張メッセ、6 年選抜大会協賛	6 年生選抜大会の優勝旗等の寄贈を受ける
2009	H21.2.1	認定指導者講習会隔年開催	受講者増により地域を南北に分けて開催
2010	H22.9.19	女子チーム (八千代) 関東大会初参加	NPB 主催の関東大会に女子チーム初参加
2011	H23.2.12	創立 40 周年記念式典・祝賀会	千葉市内のホテルで創立 40 周年記念式典挙行
	H23.3.11	東日本大地震の募金活動を実施	午後 2 時 4 6 分に発生した未曾有の大震災による被害甚大、連盟及び各地域募金活動をし、県及び日赤に寄付
	H23.5.30	鈴木宗平氏理事長退任	総会にて連盟創設から副会長、会長として 31 年間、理事長 10 年間就任して退任
	H23.6.1	飯塚教夫氏理事長就任	総会にて理事長就任

西 暦	年月日	項 目	主な内容
2012	H24.5.1	千葉県野球協会主催三学童大会を今年度より協会主催、連盟主管大会とする	今年度より協会主催三学童大会を共催大会から主管大会になる
	H24.6.1	大会規則、大会特別規則の変更 1 試合第 7 回均等回で勝敗決定 ゆうゆうボールの規則見直し	地区・地域大会を含め他チームからの補強禁止 タイムゲーム最優先適用 みなしライン等の追加
	H24.7.14	友遊ボール・東・中央・西大会開催	3 ブロックで予選大会を開催決定
	H24.8.25	第 1 回友遊ボールチャンピオン (JA 千葉中央会旗) 大会袖ヶ浦市百目木公園球場開催	JA 千葉中央会が友遊ボール大会を協賛 第 1 回チャンピオンにカージナルス (東葛)
	H24.8	第 35 回関東学童軟式野球大会磯辺シャークス優勝	磯辺シャークス関東大会 3 年連続優勝 栄誉を称え連盟表彰した
2013	H25.3.1	社会体育優良団体として表彰	千葉県教育委員会より
	H25.4.1	低学年大会出場チーム救済措置	チーム構成が出来ない時、市内地域内でチーム構成を認める
	H25.5.13	大鳴門橋大会へのチーム派遣について 第 1 回 NPB ガールズトーナメントへ派遣	野球協会からのチーム派遣要請来年度から辞退とする 女子チームのある 4 地域を中心にチーム構成、準優勝
2014	H26.5.12	第 1 回千葉県少年野球女子大会開催	5 チーム参加 オール船橋プラス 初優勝
	H26.8.31	第 20 回ロッテ旗大会、第 30 回労金大会について	両大会を記念大会とした
2015	H27.4.19	日報旗大会、労金旗大会出場数について	チーム数の減少により両大会とも 64 チームから 48 チームとする
	H27.4.1	JA 共済連千葉県本部から協賛	女子大会 6 年生大会及び各地域大会への協賛 300 万円を受ける
	H27.5.24	第 2 回千葉県少年野球女子大会 (第 1 回共済連千葉旗) 開催	千葉ドリームガールズ優勝 NPB ガールズトーナメント派遣
	H.27.10.16	飯塚教夫氏 公益法人千葉県体育協会 功労賞受賞	森田体育協会長より県スポーツセンターで受賞
2016	H28.4.1	ベンチ入り指導者 30,29,28 番は認定指導者であること	県大会全ての大会に適用
	H28.11.12	第 1 回千葉県少年野球女子秋季 (ナガセ・トップ旗) 大会開催	ナガセケンコートップインターナショナル秋季女子大会を協賛開催 柏女子選抜 初優勝
2017	H29.4.1	県全体ベンチ入り指導者 30,29,28 は認定指導者であること	ベンチ内・外の選手への細やかな指導強化のため
		県連盟登録チーム総数が 500 を割り込む	S58 年 (1983) のピーク時、登録数 1,528
	H29.6.1	稲毛区園生町の高野連隣へ連盟事務所移転	青少年女性会館閉鎖に伴い (高野連隣)
	H.29.11.6	飯塚教夫氏 千葉日報創刊 60 周年記念式典で感謝状受賞	千葉日报社協力功労者として受賞
2018	H30.4.1	全学・関学・関学秋季県予選大会出場枠の変更	いずれも 16 チーム、前年度優勝地域から 2 チーム出場とする
2019	H31.4.1	本年度から試合球は公認球 J 号に	旧公認球 (S 号) 廃止に伴い
	R1.5.4	日没・降雨による特別継続試合無くし、再試合とする	同球場同審判の確保ができないため。なお、試合は 1 時間 30 分、7 回均等回とする
	R1.6.8	連盟創立 50 周年記念実行委員会発足	式典内容等の検討について決める
	R1.9.28	台風 15 号被害、影響等調査及び募金活動について	千葉県全域、特に安房地域被害甚大
	R1.12.2	(株) ウプロ、台風 15 号被害の千葉県少年野球連盟支援	180 万円支援金 連盟は被害地域連盟に対して被害に応じて分配
2020 2020	R2.2.15	(株) ミズノ、台風 15 号被害の千葉県少年野球連盟支援	150 万円支援金 連盟は 15 地域の要望によりボール等用品を支援
	R2.2.22	女子野球大会登録ベンチ入り選手数 25 名	女子選手加入促進のため
	R2.3.30	東京オリンピック・パラリンピック 2020 開催を 1 年延期決定	新型コロナ感染拡大のため、開催を 2021 年 7 月に延期。
	R2.4.1	低学年大会を除き大会特別規則の変更	同一選手は 1 試合 4 イニング (特別延長を含め 12 アウト) とする。1 日 2 試合ある場合は 2 試合目は 3 イニングとする
	R2.4.7	新型コロナウイルス感染拡大に伴う第 1 回緊急事態宣言発令	県内小学校の休校、各地域での活動自粛

西 暦	年月日	項 目	主な内容
2020	R2.5.10	2020 通常総会開催	提案議案すべて承認成立 書面採決（資料を正会員に送付し）
	R2.5.16	第 7 回千葉県少年野球女子大会開催中止	昨年年末発生の新型コロナ蔓延に伴い感染予防のため大会を中止した
	R2.5.20	春の選抜と夏の全国高校野球選手権大会の中止決定	同 8 月選抜出場予定の各校 1 試合ずつ交流試合実施
	R2.5.24	第 40 回全日本学童軟式大会千葉県予選大会中止	新型コロナ禍のため全国大会中止に伴い、県大会も中止とした
	R2.6.20	第 43 回関東学童軟式野球大会千葉県大会中止	新型コロナ禍のため関東大会中止に伴い、県大会も中止とした
	R2.8.1	第 50 回千葉県少年野球（千葉県日報旗）大会中止	新型コロナ蔓延のため創立 50 周年記念大会を中止とした
	R2.9.5	第 29 回友遊ボールチャンピオン大会中止	新型コロナ蔓延のため中止とした
	R2.9.12	第 26 回千葉県少年野球低学年（ロッテ旗）大会中止	新型コロナ蔓延のため中止とした
	R2.11.1	千葉県少年野球特別交流大会開催	コロナ禍のため中央労働金庫の協賛得られず独自の特別交流大会開催
	R2.11.29	第 19 回千葉県少年野球 地域対抗 6 年生選抜大会開催	連盟主催大会にて 初めて安房地域優勝する
	R2.12.5	納会中止	コロナ禍のため中止とした
	2021	R3.5.8	2021 通常総会開催
R3.5.15		選手宣誓の Youtube 動画配信開始	
R3.5.31		飯塚教夫理事長退任	かずさ地域選出
R3.6.1		平澤晃新理事長 就任	通常総会にて新理事長となる 印旛地域選出
R3.6.19		第 44 回関東学童軟式野球千葉県大会開催	優勝：大橋みどりファイターズ（東葛地域） 関東大会は中止
R3.7.8		現役副理事長 小峰末行氏 死去	副理事長兼審判部長として連盟に甚大貢献 病に勝てず死去
R3.8.1		第 51 回千葉県少年野球（千葉県日旗）大会中止	コロナ禍のため県連盟創立 50 周年記念大会を中止とした
R3.9.4		第 30 回友遊ボールチャンピオン大会中止	コロナ禍のため中止とした
R3.9.11		第 27 回千葉県少年野球低学年大会（ロッテ旗）中止	コロナ禍のため中止とした
R3.10.23		第 23 回 関東学童軟式野球秋季千葉県大会（日本ハム旗）開催	優勝：豊上ジュニアーズ（柏地域）
R3.10.30		2021 千葉県少年野球 特別大会開催	優勝：東金東クラブ（九十九地域）
R3.11.26		第 20 回千葉県少年野球 地域対抗 6 年生選抜大会開催	優勝：印旛地域選抜、準優勝：市原地域選抜
R3.12.9	現役理事長 平澤晃氏 死去	現理事長として当連盟を率い一つも 急逝	
2022	R4.2.7	尾藤利昭新理事長 就任	1.30 理事会にて新理事長となる 市川地域選出

2020 年、2021 年トピックス

千葉日報

クルーズ船で新たに 70 人感染 計 355 人

厚生労働省は 16 日、新型コロナウイルスの拡大しているクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で、新たに 70 人の感染が確認されたと明らかにした。これまでに延べ 1219 人を検査し、感染計 355 人となった。

厚生労働省によると、70 人の内訳は乗客 69 人、1 人。うち日本人は 32 人で他は米国やカナダ、38 人は発熱やせきなど症状がなかった。

また、これまでにクルーズ船で重症となったのは 16 日時点で 60～80 代の 19 人で、日本人を含む。このうち新型コロナウイルスの陽性者、陰性が 1 人。

首相、初の緊急事態宣言発令へ 東京や大阪軸、被害甚大と判断

2020年4月6日 10:10 | 無料公開

安倍晋三首相は新型コロナウイルスの感染拡大に備える改正特別措置法（新型コロナ特措法）に基づき、緊急事態宣言を発令する意向を固めた。6 日午後 8 時から効力を発生させる方向だ。対象地域は東京を含む首都圏や大阪、兵庫を軸に調整する。複数の政府関係者が 6 日、明らかにした。感染が全国的かつ急速にまん延し、国民生活や経済に甚大な被害を及ぼす段階に入ったと判断した。

同法による発令は初めてで、私権制限を伴う措置が可能となる。世界的に感染が広がる中、国内対応は重大な局面を迎えた。発令すれば外出自粛要請に法的根拠ができる。

東京五輪、異例の無観客で開催 テニス大阪なおみが聖火ともす

2021年7月24日 00:02 | 無料公開

第 3 2 回夏季オリンピック東京大会は 2 3 日夜、東京都新宿区の国立競技場で開会式が行われた。新型コロナウイルスの影響で史上初の 1 年延期となった大会は、開催都市、東京が緊急事態宣言下にある中で幕を開けた。開会式も含め大半の会場が無観客。感染拡大への不安や直前まで相次いだ大会組織委員会の混乱で祝祭感が漂わない異例づくめの祭典となる。式のクライマックスでは、テニス女子の大阪なおみ（23）＝日清食品＝が球体の聖火台に点火した。

1964 年東京大会以来、57 年ぶり 2 度目の日本での夏季五輪には不参加となった北朝鮮を除く 205 国・地域と離島選手団を合わせ約 1 万 1 千人の選手が参加。8 月 8 日までの 17 日間で、史上最多の 33